

省庁等横断・連携の観点から、施策の実効性、長期的な施策の充実や検討の方向性について想定される議論の項目を整理。

<流域治水>

- ◆気候変動への対応、中小河川/支川等で背後地の状況に照らし整備水準の低い箇所等への対応
- ◆農地等の遊水機能の向上、宅地等における雨水貯留浸透施設等の整備、農業水利施設の治水利用等の課題

- 整備の優先順位設定の着眼点、河川対策以外の合理的・効率的対応の着眼点
- 効果的な対策実施のための幅広い関係者(上下流/官民/関係省庁・自治体間)の連携・利害調整・合意形成の留意点
- 農地・宅地等における対策の実効性・運用の確実性の確保の着眼点、対策促進のインセンティブ/補償のあり方(持続可能で財政負担によらないものが考えられないか)

<土地利用>

- ◆浸水ハザードエリアにおける土地利用の規制・誘導、住まい方の工夫、移転促進(対象地域の考え方、財政負担、合意形成等)
- ◆施設(福祉施設、病院等)における対応の考え方(移転、構造対応、運用(避難訓練等))

- 新規立地と既存施設の区分、短期と長期の視点
- 地域性(大都市(既成市街地)/地方部(調整区域・白地等)/中山間地域等)や対象施設(要配慮者施設/それ以外)による違い
- 広域の視点(国・都道府県の役割)と個々の自治体や住民の視点
- 施策の推進手法(補助金等を用いた積極的手法～建て替え時の規制・誘導、災害リスク情報の充実、経済的インセンティブ(税制優遇、水害保険や金融商品の充実 等))

<横断的視点>

- ◆人口減少下で地域の成長とセットで考える視点の必要性、リスクとの共存等に向けたリスクコミュニケーションのあり方 等